

前回部会でいただいた主な御意見

○データバリューチェーンのグッドプラクティス

- ・データが分析・評価・価値化され、最終的に利活用に至るまでの流れについて、具体的な「グッドプラクティス」を提示することができれば、非常に有意義。
- ・あるいは、グッドと言い難い事例に対し、どのような課題が存在し、どのような支援の仕組みが考えられるのかを明らかにしていくことも重要。
- ・生物多様性のデータは使いにくいなど課題がある。ほかの分野での観測データ利活用の「グッドプラクティス」があるようであれば参考にしたい。

○利便性、使い勝手の良いプラットフォーム

- ・データバリューチェーンを自律的なものにしていくためには、観測側からだけでなく出口側からも見たニーズの把握、どういうものを観測すべきか、連携をしていく必要がある。
- ・データプラットフォームとしてはいろんな機関がそれぞれで運用しているため、相互運用性の点が十分でない。

○データバリューチェーンにおける地域における取組

- ・問題解決に向け、データ整備を待たずに使えるものは活用していく必要がある。国際からローカル、どのレベルでどのようなことに使えるのかということが少し明確に分かってくれば、使えるものは活用するべきではないか。
- ・「地球インテリジェンス」や「バリューチェーン」において、社会全体を対象とすることは難しい。地域に合ったソリューションを自分たちで選び取る、そのプロセスを支援するツールとして、地球インテリジェンスを考えていけるとよい。

○地球観測分野における社会科学の活用

- ・観測分野における社会科学の活用について、欧米の先進的な事例と比べると、取り組む余地はある。そのような取組についてのヒアリング、資料紹介を実施するなどした上で意見、議論を深めていきたい。
- ・環境的課題に対して、フィールド観測はあるが社会の観測というものはない。単なるリモセンという意味だけではなく、場としてのインテリジェンスをもたらす、あるいは対象の場、それ自体もまた非常に大事。

以上